

図書館だより

能勢高図書館 2012. 7.

期末考査もようやく終わり、もうすぐ夏休みですね。知的好奇心を満たしてくれる教養本からえほんまで、新刊本もたくさん入ってきました。今年の夏は能勢高図書館へ来て、身も心も本の世界にのめりこんでみませんか。

☆図書館からのお知らせとお願い

- 夏休み貸し出し：
7月11日から夏休みの最終開館日の8月31日まで
貸出冊数：10冊 返却日：9月3日
- 夏休みの開館日時：
日：7月23日～31日(平日7日間)、8月24日～31日(平日6日間)
の13日間
時：9:00～15:00
- 本棚から自分で出した本は、責任をもって、元あったところにきちんと返しましょう。

☆新しく入ってきた本の案内と紹介

日本史をもっと知りたい人へ

『地図・年表・図解でみる日本の歴史 上』『地図・年表・図解でみる日本の歴史 下』小学館

『Jr. 日本の歴史』1～7巻

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1、国のなりたち 旧石器時代から飛鳥時代 | 2、都と地方のくらし 奈良時代から平安時代 |
| 3、武士の世の幕開け 鎌倉時代から室町時代 | 4、乱世から統一へ 戦国時代 |
| 5、天下泰平のしくみ 江戸時代 | 6、大日本帝国の時代 明治時代から1945年 |
| 7、国際社会と日本 1945年から現在 | |

*上2冊は日本通史を図解盛りだくさんに解説。下7冊は教科書では物足りない日本史好きのための本。

TVにも登場し、茶の間で人気のしばわんこシリーズ 川浦良枝



『しばわんこ和のころ』『しばわんこ和のころ2』『しばわんこ和のころ3』
『しばわんこ童謡を歌おう』『しばわんこの今日は佳き日』『しばわんこ和のおけいこ』
『しばわんこ和のお道具箱』『しばわんこの四季の庭』(すべて白泉社)

*日本人のおもてなしの心を可愛く絵本仕立てにしたもの。眺めるだけでも癒されることまちがいないし。

物語の世界にのめりこみたい人へ

『舟を編む』光文社 『神去りなあなあ日常』徳間書店 『仏果を得ず』双葉社 三浦しをん

*ただいま時の人。三浦しをんの本3冊。『舟を編む』は本屋大賞にも選ばれ、今、辞書引きが見直されているとか。1冊の辞典が出来上がるまでのこだわりがビシビシ伝わってくる一冊。『神去りなあなあ日常』は、地方の山間部で林業を仕事にすることになった若者の奮闘ぶりが見もの。『仏果を得ず』は文楽という古典芸能の世界に足を踏み入れた若者が芸を極めていく様が見もの。以上3冊、すべて仕事関係の本。どの本も個性的な人たちが登場し、青春大爆發。

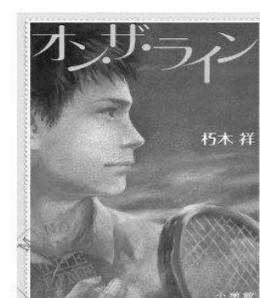
『The MANZAI』4～6 あさのあつこ ポプラ社

*野球青春小説でブレイクした『バッテリー』は野球人の心の葛藤がうまくできていたが、『The MANZAI』では、いつの間にか漫才の世界にのめりこんでいく2人の中学生が自分の居場所を見つけていく物語。いい意味で、肩の力が抜けた青春小説。1～3巻は既にあり。裏面に紹介しているので、ご覧あれ。

『ダーウィンと出会った夏』ジャクリーン・ケリー ほるぷ出版

『サファイア』湊かなえ 角川春樹事務所

『オン・ザ・ライン』朽木 祥 小学館



いろいろ読んで知識を高め、いつの間にやら雑学王?

『日本人の知らない日本語3』蛇蔵 メディアファクトリー

『日本人のちょっとヘンな英語』中野きゆ美 アスコム

『9割の日本人が知らない日本語のルール』佐々木瑞枝 中経出版

『池上彰のお金の学校』池上彰 朝日新聞出版 池上彰 角川SSコミュニケーションズ

『パスタでたどるイタリア史(J新書)』池上俊一 岩波書店

*鎌田先生おススメ本。イタリア史というよりパスタ史。最初から順を追って読むとよく分かるが、気に入ったところからでもOK。一気に読めるおもしろさ。

『高校生のための英語学習ガイドブック(J新書)』佐藤誠司 岩波書店
 『ご近所のムシが面白い(J新書)』谷本雄治 岩波書店
 『社会を生きるための教科書(J新書)』川井龍介 岩波書店
 『人類の歴史を変えた8つのできごと(J新書)』I, II 眞 淳平 岩波書店
 『さわっておどろく 点字がひらく世界(J新書)』広瀬浩二郎 岩波書店
 『進化 生命のたどる道』カール・ジンマー 岩波書店
 『エネルギー問題』松井賢一 NTT出版 *今、話題の本!
 『体脂肪計タニタの社員食堂(続)』タニタ 大和書房

『明石家さんまの話し方はなぜ60分人をひきつけて離さないのか』久留間寛吉 あっふる出版社
 * 島田紳介を引き合いにしながら、さんま独特の友達の語りから相手の本音を引き出す話芸を分析した本。著者いわく、明石屋さんまとは「全身を使ってしゃべる」芸人。

『アラブの音文化』西尾哲夫 スタイルノート
 『やっぱり怖くて動けないがなくなる本』石原加受子 すばる舎
 『新約 とある魔術の禁書目録』鎌池和馬 アスキー・メディアワークス
 『とある魔術の禁書目録と学ぶ数学 I・A』斎藤裕介 中経出版
 『物理学、まだこんなに謎がある』小谷太郎 ベレ出版
 『世界で一番美しい人体図鑑』 エクスナレッジ
 『なぜねこは幸せそうに見えるの』左近司祥子 講談社

『生きもののへんな顔』 幻冬舎
 * 眺めるだけで笑えます。癒されます。

『16歳の教科書 ドラゴン桜公式副読本』1, 2 講談社



図書委員選定図書



『「ドラダラ癖」から抜け出すための10の法則』 メリル・E・ダグラス 日本経済新聞出版社
 『フェアリー・テイル 心に宿るcolor』川崎美羽 講談社

『黒子のバスケ Replace』1, 2 藤巻忠俊 集英社
 『ギネス世界記録2012』 角川マガジンズ
 『お笑い芸人に学ぶ ウケるトーク』田中アイデア リットーミュージック
 『お笑い芸人に学ぶ いじり・いじられ術』田中アイデア リットーミュージック
 『面接の10分前、1日前、1週間前にやるべきこと』海老原継生 プレジデント社



能勢高図書館にある本の紹介コーナー



『The MANZAI』1~3 あさのあつこ ポプラ社

『The MANZAI』は、ごく普通の中学生の学園ドラマ。ただ、この普通という言葉はくせもので、普通とはいったい何をもって普通といえるのか。

主人公は、瀬田歩 14 歳。父と姉が突然、交通事故で死んだため、現在、母と二人暮らし。学校と家を往復するだけの毎日、人に心の内を見せないで、ずれないで、うかないで普通の中学生をし続けることに疲れ果てている。母の生まれ故郷に引っ越し、中学も転校してどうにか学校だけは通い、1ヶ月がたったころ、クラスメートの秋本貴史に、突然交際を申し込まれるところから歩の身辺は変わり始める。ただ、断っておくが、歩はれっきとした男子学生である。そして、ここでの交際はマンザイの相方としてだった。次期サッカー部キャプテンと噂され体格もがっちりし、思ったことを何でも口にするストレートな性格の秋本に翻弄されながらも、「おまえは、普通なんかじゃない、特別なんだ」という言葉には密かに励まされ、本来心の内に眠っていた自分に目覚めていく。学園祭では、「ロミオとジュリエット」(秋本:ロミオ役 瀬田:ジュリエット役)をマンザイで演じ、歩は否応なしに皆の知るところとなる。また、この年代ならではの同級生との絡みも見逃せない。学校一の美女であり、いつも自然体の萩本恵菜。歩の一目惚れから始まった恋だが、萩本の恋のお相手は秋本。その秋本は歩にぞっこん惚れ込んでいる。そんなわけで、この3人、奇妙な三角関係を描いている。この他、文芸部で情報通の森口、ぼっちゃり癒し系の篠原など女子学生、秀才で沈着冷静な高原、寡黙で優しい蓮田など男子学生の仲間たちも加わって、歩の学校生活は彼らなしでは考えられなくなってきた。

それぞれがそれぞれの事情を抱えている現代。辛いことも悲しいことも押し隠し、自分がそうしたいからではなく、他人がどう思うかに囚われて、自分の行動を決めていく。そんな時代だからこそ、中学生という一定の制約はあるかもしれないが、自分の今できることを自分の心に正直に精一杯しようと頑張っている彼らの姿はまぶしすぎる。他人と一定の距離を置いた中でしか生きられなかった歩が、秋本とその仲間たちとの出会いを通して、次のように言うまで変わっていく。「漫才なんてやりたくない。それでも、心の一部が、とんとんと弾んでいる。言葉を使って人を傷つけるより、言葉を使って人を笑わせるほうが何倍も、何十倍も尊いことだ。」生きていく活力、明日への希望へとつながっていく『The MANZAI』を一読あれ。

